

「受かりました〜!」。
私をみつめるなり息を切らして駆け寄ってくる女性。以前相談に来たAさんだ。

Aさんは、高校卒業後、電気関係の会社に事務職で入り、結婚を機に退職。その後はパートとしてお総菜の販売や工場の生産ラインなどで働く、中学生と小学生の子どもを持つお母さん。女性活躍支援センター主催の講座やセミナーを積極的に受けている前向きな四十代の女性で、顔を見かけるたびに、私は「頑張っているなあ」と感心していた。そんなAさんにも悩んでいることがあった。

◆◆◆

半年前のこと。相談室に入ってからも顔なじみのAさんとは、近況を聞いたり冗談を言ったりして「相談」とはほど遠い雰囲気だった。五分ほど過ぎただろうか、Aさんが「今さらながら恥ずかしいんですけど、私、資格を取りたいんです。資格を取って転職したいんです」と話を切り出した。

何でもチャレンジすることは良いことだけれど、なぜそのように思い

結婚後にパート、目標見えず

自信回復の活路は…

始めたのだろうか。

聞いてみると、「子どもが高校に入ると、お金ももつと必要になるし、それに…」。□ももるAさん。どうも本当の理由が他にありそう。

「今の仕事は楽しいですか?」と何げなく尋ねてみても、「…」。しばし考えた後、Aさんの本当の気持ちが悪く

たんです。仕事を辞めた後、子育てがあるのでパートを選んで、最初は良かったんですけど、今の仕事は別に私じゃなくてもいい仕事で、大事にされていない感じがするんです。」「私、ずっとパートばかりで学歴もないし、社員の人たちはすごく偉いんだろうな、と思うと自信がないんです…」

「Aさんは、お金の心配もあるけれど、今の仕事に満足できないし、自分に自信がないので資格を取って自信を付けて転職できたらいい」

私は、「Aさんは、お金の心配もあるけれど、今の仕事に満足できないし、自分に自信がないので資格を取って自信を付けて転職できたらいい」

◆◆◆

「受かったら〜って、もしたとのこと。机に向かって勉強するのは高校以来で、とつてもつらかったけれど、何としてでも合格せねば、と、いらなくなくなった子どものノートとチビ鉛筆で、寝る間を惜しんで頑張ったとか。」「今朝、合格通知が届いたんです。しかも一問しか間違わなかったんですよ! 子どもからも『お母さんやるじゃん』って言われました。もううれしくて! このことを伝えたくてすっ飛んできました」と興奮状態で話す。私も一緒に小躍りして喜んだ。

切ったようにあふれ出てきた。

「結婚する前に正社員で事務をしていたときは、大変なこともあったけれど、やりがいもあって、それなりに楽しかった。

な、と思っているんですね?」と、Aさんの胸の内をまとめて話してみると、大きくうなずいた。資格を取りたいという目的はこれで明確になった。そつなると今度は、

あ、と、おっしゃるんですか?」と、私が尋ねると「そう! 頑張ったんですよ」とAさんはうれしそうに答えた。

自分のことのようにうれしかった。そして、最後にAさんが言った、「私でもやればできるんだ、と自信がきました。これからはどんなことでも頑張っていけるような気がします」という言葉が、表情が、今も頭から離れない。



イラスト・多田くにお

(福井新聞社提供)